



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費に含む)

2023
No.610
6月号

◎教団方針

ひろげよう浄霊の輪
ひろげよう仲間の輪
築き上げよう愛と活気あふれる教団を

◎方針のみちしるべ

- (一) みつめなおそう明主様の心
- (二) つらぬきとおそう明主様の心
- (三) 教団綱領を尊び実践する
- (四) 信仰継承は家族と家庭円満から

— 修養 —

円満にものを治むる人にして
諸々の人慕いくるなり
如何ならむ事も堪へてさりげなく
微笑みあしらふ人となれかし
さもしきは己が手柄を諸人に
示さむとする心にぞある

神言霊

『常識』

抑々、真の信仰とは言語行動が常識に外れない事を主眼としなければならない。世間よくある神憑式や、奇怪な言説、奇矯なる行動等を標榜する信仰は先ず警戒を要すべきである。自己の団体以外の人々と親しめない

いうような独善的信仰も不可である。真の信仰とは世界人類を救うのが宗教の使命と信じ、自己の集団のみにこだわらず、排他的行動をとらないようにするのが本当である。丁度一国の利益のみを考え他国の利益を無視する結果、惨憺たる敗戦の苦杯を嘗める事になった終戦前の日本を鑑みれば分るであろう。

私は信仰の究極の目的は、完全なる人間を作る事であるとも思う。勿論世の中に完全という事は望み得べくもないが、少なくとも完全に一歩々々近づかんとする修養—これが正しい信仰的態度である。故に信仰に徹すれば徹する程、平々凡々たる普通人の如くに見えなくてはならない。そうなるのは信仰を咀嚼し、消化してしまつたからである。その人の言動が如何にも常識的であり、万人に好感を与え、何を信仰しているか分らない位にならなければ本当ではない。人に接するや軟らかき春風に吹かれる如くで、謙譲に富み親切であり、他人の幸福と社会福祉の増進を冀うようでなくてはならない。私は常に言う事であるが、先ず自己が幸福者たらんとするには他人を幸福にする事で、それによつて与えられる神の賜物が真の幸福である。然るに自己のみの幸福を欲し他人を犠牲にするというが如きは、全く逆効果以外の何物でもない事を知るべきである。



人間は何事をなすにも大自然を規範としなければならない。それに学ぶ事こそ成功の最大条件である。この意味に於いて、私が唱える浄霊も自然栽培も、その他の種々の方法にしても、大自然に従う事を基礎としている。

(昭和二十四年 箱根 神仙郷にて語る)

(昭和二十三年九月五日)

トピックス

東京教会有志による鋸山登山

— 三十年前と同じ提灯が再び鋸山山頂に掲げられる —



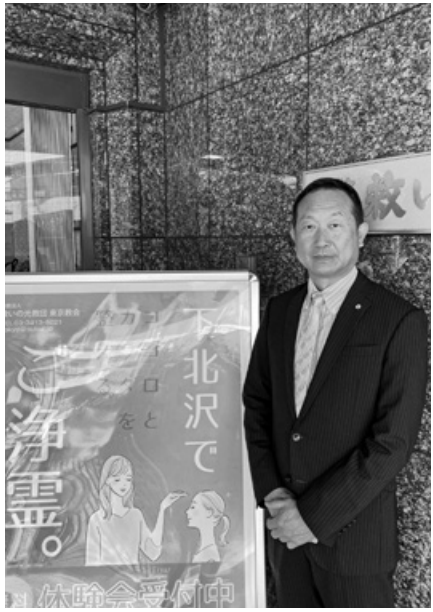
30年を経て教団提灯が再び瑠璃光展望台に掲げられる



日本寺本堂跡地で遠藤セツ元教師先達の元で天津祝詞奏上

平成六年六月十五日教団史上最大のイベント、聖跡・鋸山での天啓祭執行からはや三十年、令和五年四月二十八日、絶好の行楽日和に恵まれて、東京教会有志六名による鋸山参拝登山が行われました。「鋸山山頂で、三十年前と同じ提灯を掲げ、記念写真を撮り、それを教団百年史に掲載してもらいましょう!!」を言葉に、心臓さん、血圧さん、肺さんと相談しながら、膝さんの協力を得て、他の登山客の温かい声援を受けながら無事に予定した行程を完遂することが出来ました。山頂での記念撮影もさることながら、クライマックスは何と言っても、明主様ゆかりの地、日本寺本堂跡地で、遠藤セツ元教師先達の元、執り行われました天津祝詞奏上と神歌(天啓)奉唱でした。大いなる神光に包まれる中、明主様信仰を続けられた喜びを皆と分かち合えた貴重な時間でした。ありがとございました。※尚教団では全国の信徒さんより、ご希望があれば、鋸山参拝登山にご案内する事ができますので、詳しくは本部戸塚迄お問い合わせ下さい。

会長訓「春風に吹かれる如く」



大沼会長 東京本部前にて

て作られる曇りである」と仰つて、不安定な気候は人間が作り出す。とご教示されています。

では、この曇りを消滅させる方法はないかと「それは至極容易

で、人心が善化し、善の言行である。

季節に合わない気温の上昇、そうかと思うと平年を下回る冷温。時々今の季節は何だっけ？と自問してしまふ時があります。私だけでしょうか。

六月と聞くと梅雨が連想されます。

昨年は少し遅めに入梅であつたという間に梅雨明けでした。（後日修正されましたけど）そのあとすっかりしない天気が続いて、「観測史上初めて」のフリーズをよく耳にしました。今年はどうでしょうか。

善言讃詞の中に「五風十雨の不順序無く」とありますがそんな気候であつて欲しいと願うところです。明主様は「霊界に汚濁が堆積するとその清掃作用が自然に発生する」「すなわち風で吹き払い、水で洗う。しからば汚濁とは何であるかという、それは人間の悪に属する想念と言葉と行為によつ

て作られる曇りである」と仰つて、不安定な気候は人間が作り出す。とご教示されています。

では、この曇りを消滅させる方法はないかと「それは至極容易で、人心が善化し、善の言行である。すなわち悪によつて曇らせられたる霊界を、善によつて晴らすのである。善は光となつて曇りを解消する」と実践を促しています。

今月賜りました神言霊「常識」の冒頭「真の信仰とは言語行動が常識に外れない事を主眼としなければならぬ」と始まります。私たちは心して

日々の生活に実践していかなければならないことです。

NHKラジオで四月から始まった午前中の新番組のタイトルは「ふんわり」といいます。世の中はそんな人を求めているのでしょね。お互い引きあ

うば争い事は無くなります。

あそこに行けば癒される。心安ら

ぐ。そんな信徒が集う教会、光導所を創っていきましょう。心がけて、「接するや軟らかき春風に吹かれる如く」ですよ。

です。

光守様 長岡教会御巡光「おことば」



「おことば」を述べられる光守様

と思うときに、いくつかの言葉『神言霊』によつて支えられて、今日まで生き延びてまいりました。

崩れ落ちそうな自分、もうあきらめてしまひそうな自分を支え、再び立ち上がらせ、もう一歩進んでみようかという気にさせてくれるのが、力強い心の暖かいことばです。

『神言霊・祈りの玉ぐさ』等、本当にありがたいといつも感謝しています。

人間は常に日常生活の中に埋没して自らを見失っている、人間が人間らしく生きる、心暖かいことばを発するためにも、聖なる空間へ出入りをし、自分をリフレッシュする必要があるので。日常との切斷・離脱です。

「教会に参拝する」「浄霊をいただく」「想念の浄霊をいただく」そういうことなのです。

「日常の中で聖なるものに近づくことが出来る、その結果、清らかな言霊が自然と湧いて来る」明主様の『おことば』は愛情の表現だと理解しています。

この長岡教会は中川徳蔵先生・中川ミツ子先生の、二人の教会長からいろいろ学ばれて、結束している教会として明主様の強い『おひかり』をいただき結束しています。

この長岡教会が今後も、私が日頃申し上げています「光と清らかな言霊の満ち溢れる教会」の模範として窪田教会

長のもと研鑽を積みま

れることを切に願つております。



観音光頸飾を拝受する澁谷汰陽さん



光守様と緊張がとけ満面の笑顔の澁谷汰陽さんと弟の望生さん



光守様と感謝祭参拝者全員で記念撮影

感謝奉告

澁谷 汰陽

〈長岡教会 宮関光導所〉

感謝祭おめでとうございます。感謝奉告をさせていただきます。

僕は今年、越路中学の一年生になりました。

三月二十六日と四月八日に研修をうけて、今日光守様からお光をいただくことができました。

お兄ちゃんも光守様からお光をいただいたので、僕も光守様からいただくことができ嬉しかったです。

これからは部活や勉強を頑張り、できるだけ参拝をしたいと思っています。

大光明明主様、光守様ありがとうございました。



池田美代子
（滋賀教会
八幡光導所）

感謝奉告

このたび感謝の御奉告をさせて頂くのは、阪神淡路大震災で命をお救い頂いた御奉告以来二十八年ぶりとなります。

当時、激震地の芦屋に住んでおり、まわりの家屋、高速道路までもが倒壊する中、無傷で助けて頂いたのは本当に奇蹟としか思いませんでした。就寝していたベッド脇の洋服ダンスが倒れてきたものの壁との隙間により助かった事など、今こうして生きていることがあらためて当たり前ではないのだと思います。

しかし、当時の気持ちも日々の暮らしの中で徐々に薄れ、生かされた命を有意義に神様の手足となって精進しなければという心持も、ともすれば忘れがちで風化してしまふこともあり、今日に至ります。

五十歳前後の頃には、いわゆる女性の更年期と父の死などが重なり、アルコールの量が増えたりと、心が不安定になっていました。一人暮らし故、働かないと生きていけないというのは本能的にわかっているのにギリギリのところでなんとか仕事には穴を開けないように働いておりましたが、休日ともなると「生きる意味がわからないし、何の意味も見出せない。」などと深みにはまり、布団から出るのが夕方になることも。また、仕事以外の予定を入れることも出来ず、スケジュール帳が真っ白という時期もありました。正直、その頃の記憶が曖昧で一年だったか二、三年続いたのか、はっきり覚えていない程です。

その頃は、御奉斎させていただいております仰光観音御影様の家庭祭もともにさせて頂くことが出来なかったこともあり、申し訳ない気持ちで一杯です。実家の家族らの進学や就職といった喜び事も心から祝福出来ない自分が嫌で、気が晴れず、本当に、生きているのか死んでいるのかわからないような二度と体験したくない暗たんな日々でした。

それでも、毎朝の朝拝には天津祝詞に続き神歌をお唱えするのは続けており、時に

心に響く神歌やその日を生きるのに支えとなるような神歌に度々出会えました。それは本当に救われて有り難かったです。もし、信仰をしていなければ出会えなかった『神言霊』や神歌の数々…、物心ついた頃から入信のお許しをいただいていた信仰のない暮らしは想像もつきません。

そんな中、コロナ前の二〇一九年の冬に、たまたま目にしたホットヨガの体験レッスンのチラシに何か感じるとあり、早速受講。そして即入会！とても自分に合っていて楽しい。今では三日とあけずに通っています。体を動かすのは心にも良い作用をもたらすそうですが、ヨガは単にスポーツというよりは「自分と向き合う時間」を持つことが良かったようです。ヤマ・ニヤマというインドの教えがあるのですが、ヨガの基本哲学も奥が深くて信仰者としてはなかなか興味深いです。やるべきこと、やってはいけないこと、利他の精神など、明主様の教えとも通じるところがあるように思いました。他と比べなくていいんだ、というような境地に至る事が出来てからは心がふと軽くなったようです。自身の身体のことでは、若い頃からアトピーや乾癬など皮膚が弱いので長年患っています。それは皮膚から毒素を出していたに違いないのだと思っています。

また、三十七歳で再就職した今の勤め先には忌引き以外で遅刻・病欠したことが一日もなく、「無事は名馬」と自分で言うのも変ですが、大病することなく、ずっと健康で働かせて頂いているのは有難い事だなと思います。特に昨今はコロナ感染により、

勤め先でも年末にクラスターが発生し、同時に数名の感染者が出た中、その欠員分の業務を代行する事が出来、会社に貢献することが出来ました。何より人様のお役に立ちたい、自分出来ることを精一杯やりたい、と純粋な利他の心で働くことが出来たのが自分にとりまして発見であり喜びでもありました。少々古い氣質の会社のため、

女性の出世は望むべくもなく、それでも肅々と勤め続けておりましたところ、昨年末に思いもよらず主任への昇格の内示があり、涙が出る程嬉しかったです。利他の心で働くことが出来たからこそではないか

と思いました。

今は、ヨガ通いで培った体力に少し自信が持てたので、思い切つて勤務先の近くを走る市民マラソンの十キロランに出場してみることになりました。急に思い立ったので十分な準備もかなわなかったのですが、なんと完走することが出来ました。ラストの二キロでは、若くして亡くなった弟の名前が自然に口からこぼれ、彼が体験出来なかった分「私が代わりに体験しているよ」とか「力を貸してね」と、思いながら力をふりしほりました。ゴールの際は、浄化とも思えるくらい涙が片方の目だけからあふれてきたのは不思議でした。今、五十五歳なので還暦まであと少しトレーニングして、ハーフマラソンに出場してみたいなあ、と夢のような目標も出来ました。なんだか生きるのが楽しくなってきました。

当たり前ではなく、元気で働ける喜びを生かされていることを、ヨガやスポーツが楽しく出来る心と身体をお与え頂いたことに感謝しています。

今思えばアトピーをきっかけに仰光観音御影様のご奉斎をお許しいただいたのですし、健康に留意し、食生活を改め、心の持ち方、自然療法などへの関心をよせることができたのだと感謝の気持ちで一杯です。まだまだ二十八年分の御守護は一度に書き切れるものではないです。

こどものころから「浄霊のお取次ぎを幾度も幾度もしてくれただけでなくなった祖母。ご浄霊で絶対治るという圧倒的な安心感がありました。

そして、心の調子が悪かった時もずっと見守ってお世話してくださった光導所の叔母、信徒代表の叔父。日々は自己浄霊をさせていたでいておますが、浄化の酷い時はお二人に想念のご浄霊をお願いし、沢山お光を頂きました。毎月、車で教会まで運転してくる妹、御一緒する信者さん。皆様の御蔭で楽しく信仰を続けられている気がします。本当にありがとうございます。

これからも日々丁寧に信仰して参ります。大光明様、明主様の御守護に感謝申し上げますとともにこれからもお見守り下さい。光守様、日々の深いお祈りありがとうございます。会長先生、ありがとうございます。

長野教会竣工三周年記念講演 新田博士記念講演第一回

医学からみたくすりの毒性と副作用

プレイバック「神成」 昭和五十一年新春号より（抜粋）

薬というもの

まず、明主様のみ教えの中にあります「毒薬」、この事に関して、私が先程から申し上げておきますように、いろいろ小生意気なことを申し上げなくとも、皆さま方は身をもつて体験されていることと存じますし、あるいは直接、間接にいろいろな事を聞いておられますので、今更申すまでもないことですが、薬が一般に非常に使われているにもかかわらず、明主様のみ教えの毒薬とは、医者がみた場合どういう風な見方ができるのでしょうか、ということに関して皆さまがご知りになりたいと思いますので、それをお話いたします。

まず薬というものは、どんな薬でも、西洋医学の薬でも東洋医学の薬でも、漢方でも和方でも、どんなものであれ薬というのはすべて、人間の身体にとっては、なじまないものです。そこ辺がまず、食物というものと薬が根本的に違うところです。「西洋の薬は害がある」ということは分かるが、漢方ならいいじゃないか」といいますが、漢方薬であっても人間の身体にとっては、なじまないものです。

なじまないものは身体にとっては異物であり、大なり小なり有害です。従って薬というものはどんなものであっても、大なり小なり必ず副作用が伴います。これは医学的にはつきり分っていることなのです。よく「毒にならないものは薬にもならない」ということを言われます。事実その通りで、人間の身体にたいして全然毒作用がないものは、薬としての作用もありません。もちろん同じ毒作用といっても、薬の性質によって非常に副作用が強いもの、中くらしいもの、弱いものといういろいろあります。おおよっぱに毒が強いものから順に幾つかの例を具体的に申し上げます。

薬の副作用

麻薬とか覚醒剤の類などは徹頭徹尾、複

数ばかりですが、使っているなかで、だんだん習慣性がついてきて、そしてだんだんと身体があつち、こつちの機能が悪くなり、しまいいは廃人になってしまうということは、誰でもがよく知っていることです。このように麻薬などは取り上げる必要もないほど毒作用は明白です。もう少し毒作用の少ない薬を順にお話します。たとえば今癌に使われている薬が沢山あります。正直申し上げて私自身が癌の研究をしておりますが、癌の化学療法と、癌の免疫療法との二つが私の専門領域なのです。ですから自分のやっているものに自分でケチをつけるみたいで非常に格好が悪いのですが、今癌に使われている薬のほとんどが、全とは申しませんが、非常に副作用が強いのです。癌というものの性質上、放っておけば、ほとんど間違いなく助からないという事実があるものですから、多少の毒作用が出て、それによってかなり寿命が伸びれば、現代の医学の目的が少しでも達せられるといえるので、やむを得ず使う訳ですけど、非常に副作用が強いのです。使っているうちに白血球がどんどん減ってきて、体の抵抗力が著しく低下したりいたします。時にはかえって死をはやめることすらあります。

自然治癒力

次に「精神安定剤」のような薬でもやはり、相当副作用が強いのです。精神安定剤みたいなものは、使いました当座はすぐ副作用が出てきません。ガンの薬みたいなものは、割に早くから副作用が出てきます。ですから、副作用が出てきますと、その時であつてこの薬は中止するということは、医者はもちろんやる訳ですが、精神安定剤みたいなものは副作用がそう簡単に表にあらわれないものですから、いきおい長期にわたって使ってしまうということになります。そうすると副作用が出てきた時にはもう手遅れということになってしま

訳です。じっくりと、しかも重篤な副作用ののでくるいい例が、今いました精神安定剤や、あるいは、リユーマチなどのときによく使う「副腎皮質ホルモン」です。「副腎皮質ホルモン」は「ステロイド」とか「コチゾン」などと呼ばれる、名前ぐらいはお聞きになったことがあるかもしれませんが、こういったものはリユーマチ、あるいは、神経痛などの痛みのはピタリと止まり、劇的によく効きます。その為によく使われます。

時によつては、そうすぐにピタリと止まってくれない、多少かるくなるけれども、すぐには止まらないということもあります。が、だんだん使っておりますと、そのうちに、全身の抵抗力がなくなってくるのです。副腎皮質ホルモン…このステロイドというものは、人間がもともと神様から授けられている自然に病気を治す抵抗力、自然治癒力を落としてしまうのです。

外から細菌、その他の遺物が入ってくる、体になじまないものが入ってきますと、人間はそれに対して反応いたします。そして、そういうものを排除しようとする力があるのです。外敵に対してそれを防ぐ力、病気を自然になおそうとする力が神様からあたえられております。そういう力を落としてしまふ、そういう働きを副腎皮質ホルモン、ステロイドは持っているわけです。そのためにだんだん抵抗力がなくなつてきまして、いろいろなものの感染に対して、非常に弱くなつてしまふのです。昔だったら肺炎にかかってもそんなに簡単にすぐ死ななかつたのですが、そういうものを使つていまして、肺炎にかかっても、すぐにコロリと死んでしまふのです。感染症にかかた時に治りにくく、死にやすくなつてしまふばかりでなく、抵抗力が落ちるために、結核やその他のいろいろな病気にかかりやすくなつてしまふのです。

(つづく)



岡田茂吉 の 自然農法 モミ播きと育苗

今年四月に入ってから不安定な天候が多く、前回ご紹介した「春おこし」の作業も雨で中断せざるを得ない事もありました。それでも、雨の合間を見計らって何とか後半までには作業を完了させました。その様な中で稲づくり自体の作業も開始しました。

最初の作業は、種モミの選別と「さい芽」作業です。前回ノギ取りした種モミから良い種だけを選び分けるために、種モミを塩水に漬けて選別します。その後、「さい芽機」という大きな桶の様な機械に入れて、温水をかけ流しながら数日間

漬けておきます。そうすることにより、モミの胚芽から芽を生長してゆきます。一連の作業は四月二十二日～二十八日朝にかけて行いましたが、昨年に比べ今年はその期間を少し長めにしました。そうすることにより、芽の生長にバラつきがより起きにくくなるのです。胚芽がはと胸状になるのが丁度良く、二十八日には大半がその様になったので、シートの上に広げて一日以上かけて乾燥させます。直射日光が当たらず、尚且つ風通しの良い場所で乾燥させるのがベストです。その間、育苗トレーに土を入れるなどの各種準備を行いました。

に種モミを播く作業で、専用の機械に通して行います。播き終わったトレーは育苗用ビニールハウス内に丁寧に積み重ねてゆき、最後にブルーシートで隙間なく包み込んで芽をしっかりと伸ばしてゆきます。全七十枚を終わらすまでひたすら動き回っていましたが、ご協力頂いた皆さんのお陰で無事に作業が終了しました。以降は一週間近くかけて芽を生長させてから、ハウス内にトレーを広げて、稲苗を育ててゆきました。全工程の中でも特に繊細な作業であり、尚且つ今年の天候は安定しない事が多いので、今まで以上に気を遣い、育ててゆきました。



モミ播き

『薬禍薬害』を勇気をもってひとびとに

藍原清巳（中2） 佐渡分教会
プレイバック「神成」 昭和五十三年六月号より（抜粋）

行きました。

道を歩いても、授業中でも、父のことがおもしろい出され、すぐ帰りたい気持ちでしたが「大丈夫だ」といった母の言葉を信じ、あせる気持ちをぐさぐさしていました。

学校から帰ってみると、佐原先生がお出でになって御浄霊をして下さっていました。全身にもすごい汗をかいて、額は熱く、湯気があがっていました。40度の熱が一日中つづいたというのは、はじめてだと先生もいっておられました。その後、たびたび先生は御浄霊にお出でになりました。

僕が人信したのは、小学五年の時でした。でも、両親が信者であったので、前から御浄霊をいただいていた。僕は、小さい時からよくかぜをひき、必ず熱を出しました。それがきまって、土・日曜などの夜で、病院が休みになるので、父母は一生懸命御浄霊におすがりしていたそうです。今おまへは、あれは「注射や薬はいけな」と、明主様がお教えた下さったのに違いないことがわかりました。

今年の三月、学年末テストの一週間前、朝起きてみると、父がとても苦しうなうなっていました。体温をはかってみたら、39・8度で、昨晩からずっと咳をしてはいたものの、こんなにひどくなることはおこしませんでした。その日、ずっとつきそっていて御浄霊をしてあげたけれど「大丈夫だから、学校に行きなさい」と母にいわれ、僕は学校へ

感じました。今までの僕は、御浄霊というものがあつたとを、世の人々に知らせなければならぬといわれても、信じてもらえないのではとおもって、恥ずかしくて、誰にも話すことができませんでした。でも、新聞、テレビで薬害のために苦しんでいる人、医師の間違った治療のために、亡くなった人の話をよく耳にしますが、他人ごとではありません。

勇気をもって、薬禍薬害の恐ろしさを、世の一人でも多くの人に、体験をおぼせて、知らせてあげることが大切だとおもいます。家族での交換浄霊から、少しずつ輪をひろげて、親しい友人、知人に教えてあげたいとおもいます。

明主様、すばらしい体験をもつことができました、（以下略）



双葉

薬禍薬害を

勇気をもって

ひとびとに

（以下略）

丁寧なお世話

（信徒さんから学ぶ）

四月九日夕刻、翌日に控えた『慰霊祭』に向けて、招魂の儀を執り行なったところで、職員の方々が「すごい、すごい、光守様来て下さい」と大きな声で私を手招きする。私もすぐさま「うわー！すごい」皆満面の笑顔。

礼拝堂東面の窓際に置かれた二鉢の胡蝶蘭が、信徒さんの「丁寧なお世話」で見事に花を咲かせたのです。

調べてもらいましたが、胡蝶蘭は、株の寿命が最長五十年あり、一度枯れてしまっても胡蝶蘭に合った管理をすれば、何度でも花を楽しめるそうですね。でもその管理が大変なようで、置き場所、湿度・温度管理、水やりなど素人が二

光守の思い

度咲きさせるのは、とても難しそうです。この胡蝶蘭は、昨年八月の『教団創立五十周年式典』の際、知り合いの方から「御祝」で頂いた三鉢のうち二鉢なのです。うち一鉢は、自宅に持ち帰りましたが、毎度のことですが、根が枯れてしまいい御陀佛、残念で自分をせめ涙が……。

「丁寧なお世話」次第では、更に五十年花を咲かせることが出来るという、教団五十周年記念に頂いた胡蝶蘭。合わせて百年。勝手に運命的なものを感じてしまい笑みがこぼれます。

二鉢の胡蝶蘭が置かれている場所は日当たりよく見晴らしのよい礼拝堂東面の窓際。そこからは正面に、明主様御聖誕地浅草が望め、右側には鋸山の在する房州を拝することが出来る、縁起の良い場所。

そして今現在、その東面には私もお



見事に花を咲かせた胡蝶蘭

編集後記

『祈ることは生きること』

光守様のお供で、先日長岡教会の感謝祭に伺ったときの事です。信徒さんが光守様の目の前でお弁当の入った紙袋を両手に持ったまま、僅な段差につまずき勢い正面から転倒してしまいました。皆さんすぐさま集まり、強打した膝まわりを触診、骨に異常が無いことが判ると、早速千手観音の如く患部を浄霊の掌が囲む。それを見た光守様もすかさずその信徒さんの真後ろに陣取り浄霊の輪に加わる。御神殿にいた皆さんは二、三秒の間、その状況が呑み込めず固まってしまふ。

転ばれたご本人は「こんなことでも

しなければ、光守様に「浄霊などして頂けなかった、転んで良かった」とユ一モアたっぷり。幸せそうな皆さん。ご神殿に慈愛溢れる崇高な時間が流れる。

東京に戻ってから、着替えもなさらず、二階の御神殿に「よいしょ、よいしょ」と上がり、二件の御守護願いの取次儀、そのあと長い時間をかけ滋賀と塩竈に向けて相念の御浄霊。翌朝も転倒してしまった長岡の信徒さんに向けて想念の御浄霊。九十一歳 早朝から夜遅くまで、大忙しの光守様。

日ごろ「祈ることは生きること」とおっしゃっている、実践されているそのお姿には、ただただ頭が下がります。